

**2023年3月期**  
**決算説明会資料**  
(決算短信補足資料)

[2023年5月17日開催]

**SMC株式会社**

# 2023年3月期 決算説明会

2023年5月17日

SMC株式会社

代表取締役社長 高田 芳樹

Supporting Automation



## 2023年3月期決算サマリー

製造業全般で自動化投資が継続。販売数量増  
ポジティブな為替影響により、  
売上高・利益ともに、過去最高を更新

業種別では、半導体関連は上期は高水準だった  
が、下期からメモリー関連中心に調整局面に。自  
動車関連は、部品不足の影響は続いたが、中国  
中心にEV需要が拡大

部品・材料の調達難は徐々に緩和

設備投資は、計画1,200億円に対し、815億円  
を実施

年間配当は900円、自己株式取得550億円実  
施と併せて、総還元性向50%を維持

	21年度 実績		22年度 実績		前年度比 (21/4Q vs 22/4Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	7,273		8,247		973	13.4%
売上原価	3,635	50.0%	4,036	48.9%	400	11.0%
売上総利益	3,638	50.0%	4,211	51.1%	573	15.8%
販売管理費	1,359	18.7%	1,629	19.8%	269	19.8%
営業利益	2,278	31.3%	2,582	31.3%	303	13.3%
経常利益	2,729	37.5%	3,059	37.1%	329	12.1%
当期純利益	1,929	26.5%	2,246	27.2%	316	16.4%
期中平均為替レート						
ドル	112.39		135.56		+23.17	20.6%
ユーロ	130.55		141.05		+10.50	8.0%
人民元	17.51		19.75		+2.24	12.8%
減価償却費	205		257		52	25.3%
研究開発費	234		273		39	16.6%

# 2024年3月期ガイダンス



売上は、半導体の減速、欧米の景気後退懸念等、厳しい経営環境ではあるが、EVシフト、コロナ後の自動化・省力化需要を取り込み、数量ベースで前年並みを計画

営業利益は、インフレによるコストアップ、円高の進行といった要因により、減益を計画

設備投資は、2026年度売上高1兆円に向け、生産能力の確保とBCP対応のため、引き続き積極的に行い、前期計画と同じ1,200億円を想定

年間配当は、前期と同じ1株あたり900円を計画し、事業の成長と株主還元を両立

	21年度実績		22年度実績		23年度予想		22年度比 (22年度 vs 23年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	7,273		8,247		8,070		-177	-2.2%
売上原価	3,635	50.0%	4,036	48.9%	4,050	50.2%	13	0.3%
売上総利益	3,638	50.0%	4,211	51.1%	4,020	49.8%	-191	-4.5%
販売管理費	1,359	18.7%	1,629	19.8%	1,690	20.9%	60	3.7%
営業利益	2,278	31.3%	2,582	31.3%	2,330	28.9%	-252	-9.8%
経常利益	2,729	37.5%	3,059	37.1%	2,530	31.4%	-529	-17.3%
当期純利益	1,929	26.5%	2,246	27.2%	1,830	22.7%	-416	-18.5%
期中平均為替レート								
ドル	112.39		135.56		130.00		-5.56	-4.1%
ユーロ	130.55		141.05		145.00		+3.95	2.8%
人民元	17.51		19.75		19.00		-0.75	-3.8%
設備投資	834		815		1,200		385	47.1%
減価償却費	205		257		300		43	16.4%
研究開発費	234		273		300		27	9.6%
年間配当(円)/株	750		900		900		0	

# 設備投資



下妻第2工場



釜石第5工場



遠野第2工場

		2022年度		2023年度計画	
用途	地域	実績	案件	計画	案件
製造	国内	345	345 SMC	350	155 遠野工場 41 下妻工場 43 釜石工場 111 他
	海外	177	80 バトナム製造 73 中国製造会社 7 シンガポール製造 6 SMC インド 10 他	350	201 バトナム製造 85 中国製造会社 31 SMC アメリカ 27 SMC 韓国 6 他
本社 開発 販売 物流	国内	131	130 SMC 1 他	400	288 JTC 84 新本社 27 東西ロジ 1 他
	海外	163	59 SMC アメリカ 24 SMC ドイツ 17 SMC トルコ 9 SMC スペイン 9 APテック 45 他	100	30 SMC 中国 14 SMC オーストラリア 9 SMC チェコ 9 SMC アメリカ 38 他
合計		815		1,200	

# 当社の強み



## 経営環境／社会の変化

### 1. 地政学リスクの増大

- 自由貿易化の停滞傾向、ロシア・ウクライナ紛争
- 異常気象の常態化、Covid-19の影響継続
- サプライチェーン混乱の継続

### 2. インフレ、金利上昇

- 原材料費、人件費の高騰
- 各国の政策金利引き上げ、為替変動幅の上昇
- 景気・経営環境悪化

### 3. CO2排出量削減へのモーメント

- 各国、各国際機関が関与
- サプライチェーン全体での対応（スコープ3）
- ESG Rating等への対応

## SMCの強み

### グローバルな直販体制、分散・安定した顧客基盤

- 7,000人の直販営業人員、60万社の顧客

### 製品供給力、コストダウン・短納期の実現

- 継続的な設備投資による生産余力、潤沢な在庫
- 主要部品内製化、生産量確保によるコストダウン

### フルラインでの品揃え、顧客要求を叶える体制

- ワンストップで提供可能、フレキシブルな開発体制

### 強固な財務体質と盤石な業務体制

- 潤沢なキャッシュフロー、BCP体制、サイバーアタックへの備え

### CO2排出量削減に貢献できるソリューションカ

- 小型軽量の製品群、省エネ製品、低圧化インパクト製品（AMS、増圧弁、無線）
- 自社工場でのノウハウを活かした提案営業

5

# 23年度施策



## 1. 販売数量増加・シェア拡大

- ・販売量拡大・生産量拡大を通じたコストダウン推進
- ・生産・業務プロセスの透明化を通じた合理化
- ・戦略をグローバルに統一し、効率的に成果を上げる

## 2. IT導入による合理化、グローバル人材活用

- ・生産DX導入による生産性向上
- ・透明化された業務プロセスを元に、担い手を多様化
- ・グループ会社の人的資産を有効活用

## 3. 営業体制の整備

- ・外勤営業の生産性向上、代理店との連携
- ・営業内勤業務の合理化
- ・グローバル契約による顧客との関係強化

## 4. 販売量を増やすための営業戦略

- ・エンドユーザーとセットメーカーの両面からアプローチ
- ・非空圧製品の拡販、未開拓業種・用途に拡大
- ・CO2削減ソリューション提案

## 5. 販売量拡大を支える兵站の整備

- ・売上高 1 兆円に対応可能な供給能力
- ・部材調達力向上
- ・顧客要望を反映したアジャイルな製品開発・生産対応

## 6. BCP体制構築

- ・生産の複数拠点化、部材の複数購買
- ・開発の複数拠点化、海外技術センターの機能拡充
- ・データセキュリティ、データバックアップ

6

# 製品バリエーション



## 圧縮空気浄化機器

圧縮空気の除湿・ろ過処理により、  
清浄な空気を生成する機器。



圧縮空気浄化フィルタ エアドライヤ

## 方向制御機器

圧縮空気の流れの方向を切換えることで、  
エアシリンダなどの駆動機器を制御する機器。



無線システム ソレノイドバルブ

## 空気圧補助機器

圧縮空気中の水分・固形異物除去、圧縮空気の  
圧力調整・潤滑油供給機器、速度制御、配管用機器。



モジュラタイプ FRLユニットコンバージョン チューブ

## 駆動機器

方向制御機器により、切換えられた圧縮空気  
を利用し、直線・回転動作、把持を行う機器。



ロータリクチュエータ エアシリンダ エアチャック

## 検出スイッチ

空気や水など、さまざまな流体の圧力や流量を  
検出する機器。



圧力スイッチ フロースイッチ

## 静電気対策機器(除電機器)

静電気による製品の破壊や異物付着を防止する機器。



イオナイザ 高圧電位センサ

## 電動機器

各種コントローラと電気モータを使用して高精度多点  
位置決め、ショックレス搬送などを実現した電動機器。



電動アクチュエータ コントローラ/ドライバ

## 真空用機器

圧縮空気を供給して真空を発生させ、  
ワークの吸着搬送を行う真空機器。



真空エジクタ 真空マウント ベルヌーイグリッパ

## 協働ロボット用グリッパ

ロボット先端に取付け、  
ワークを吸着・把持するハンドとなる機器。



真空グリッパ マグネットグリッパ エアグリッパ

## 温調機器

精密な温度コントロール、冷凍方式のサーモスタットや、  
電子冷却素子を採用したサーモコンなどの機器。



サーモコン サーモスタット

## 流体制御用機器

空気・中真空・水・油・蒸気など  
さまざまな流体の流れを切換える機器。



2ポートバルブ

## 薬液用機器

半導体や医療などに使用する  
酸・アルカリ・超純水などに適合する薬液用機器。



薬液用バルブ

## 高真空機器

半導体製造装置に使用される高真空機器。



高真空バルブ スリットバルブ

## プロセスガス機器

半導体産業など高純度のガス供給用途に対応。



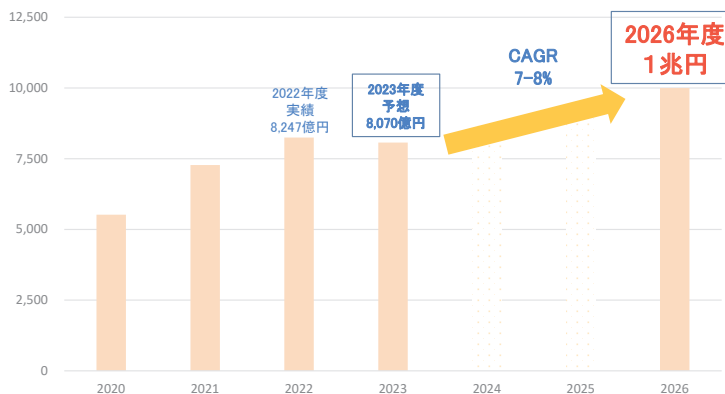
減圧弁(圧力調整機能) ダイアフラムバルブ

# 2026年度 1兆円に向けて



SMCの総合力により  
グローバルシェアを拡大

自動制御機器 世界No.1  
2026年度 売上高 1兆円  
を目指す



## CAGR 8%/年のための重点施策

### 既存顧客向け販売増 : 2%

- ・プロダクトミックス分析
- ・グローバル契約を軸としたリンケージ

### 半導体向け製品拡販 : 2%

- ・チラー、ゲートバルブ、高真空製品、テフロン製品

### 2次電池関連拡販 : 2%

- ・中国・韓国中心 → 北米・欧州需要取り込み

### 環境関連・省エネ製品拡販 : 1%

- ・AMS、増圧弁等

### 多角化 : 1%

- ・非空圧製品
- ・業種、ユーザー層の多角化 (食品、医薬、農業、物流、水処理 etc.)

# 販売注力製品、Product Mix



顧客の需要を十分に把握し、販売機会を逃していないか

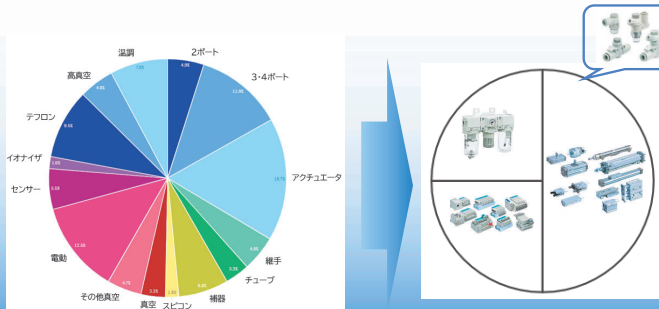
- 顧客は総合メーカーである当社からワンストップで購入が可能
- 顧客は1社購買により補修部品の在庫圧縮が可能

顧客毎に製品別の販売シェアを把握し、

- 非空圧機器は、相対的に低シェアであり販売拡大余地有り
- 継手・チューブ等もクロスセル徹底による販売拡大余地有り

⇒ 改めて当社シェアを製品別に把握し販売機会を追求する

伝統的空圧機器 以外の製品	コモディティ 製品	省エネ製品
温調機器	管継手	AMS
検出スイッチ		
高真空機器		
電動機器	チューブ	増圧弁
静電気対策機器		
テフロン製品		



# 省エネ提案について



- IoT化
- 無線化
- 見える化
- 電動化
- 局所増圧
- 長寿命化
- 軽量化
- 創エア
- 低圧化

## AMS(Air Management System)

生産設備の稼働状況を自動判定し、設備の待機中に、空気の圧力を必要最低限に自動で切替。必要な機能を維持しながら、エア消費量を削減。測定データを無線で送信、工場内のIoT化に寄与。工場内配管の低圧化とセットで推進し、顧客の使用電力量削減 (= CO2消費量削減) に貢献。

## 省エア増圧弁

工場内配管の低圧化をした上で、局所的に大きな力が必要なところで部分的に増圧できる。増圧時に消費するエアを従来製品比で40%低減可能。

省スペース・軽量化、長寿命化、IoT化・見える化等、トータルソリューションで、競合と差別化。



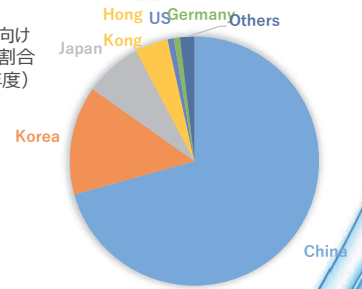
# 2次電池について



2次電池向けの売上については、中国・韓国が中心

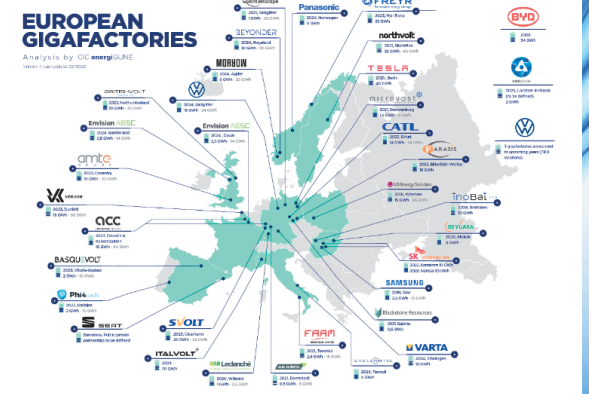
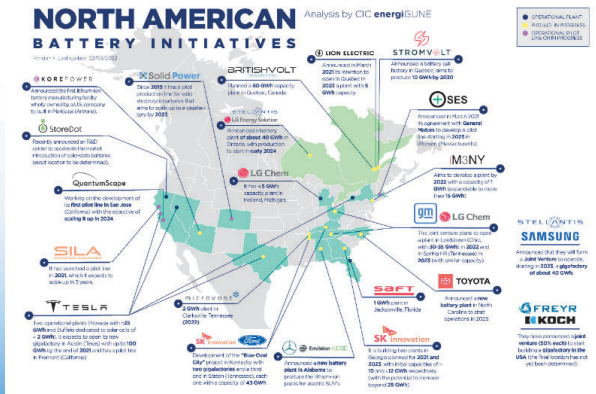
(中国) 2次電池+EV向け売上 2022年度実績 約260億円  
 21年度比22%増 20年度比1.5倍 19年度比 600%  
 →今後3年間の成長率は115%~120% / 年を見込む

2次電池向け  
 国別売上割合  
 (2021年度)



北米・欧州では、多数のプロジェクトが進行しているが、設備業者は中国・韓国の業者が中心⇒当社の中国・韓国での実績を活用できる！

北米・欧州で進行中のEVバッテリープロジェクト  
 出所：CIC energiGUNE



# 多角化とリンケージについて



## 多角化

あらゆるネットワーク・機会を利用し、様々なユーザー層、産業、装置へアプローチし、新規顧客を開拓  
 →収益源の多様化、安定化を図る



植物プラント (農業)

ワイン・日本酒  
 クラフトビール製造

酪農・搾乳

チーズ製造

粉体・集じん  
 薬品・ファインケミカル  
 (化学プロセス)

## リンケージ

情報、資源を最大限に活用し、互いに結び付け (リンケージ)、国内・海外・同業種・異業種を問わず、複数のユーザーを点と点で結び、面として様々な角度からアプローチ

# サステナビリティの取り組み



## 2021年度

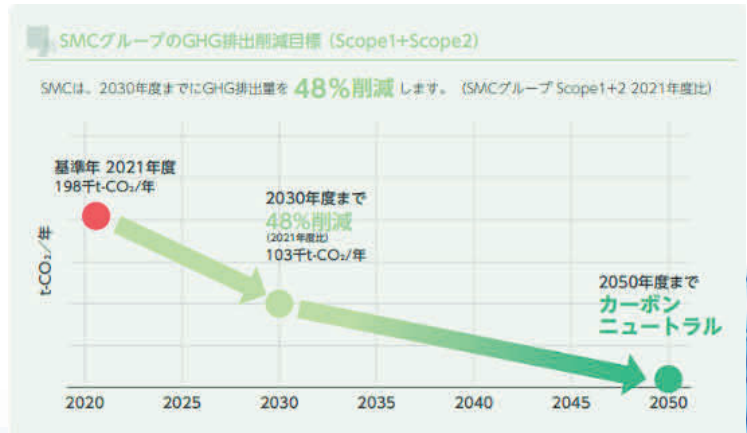
「サステナビリティ委員会」を設置  
「エコファクトリー推進室」を新設

## 2022年度

TCFDへの賛同を表明  
2050年度カーボンニュートラル、  
2030年度GHG排出量48%削減の  
中長期目標を策定・開示  
(Scope 1 + 2)

## 2023年度（計画）

Scope3削減目標の開示  
統合報告書発行  
ESGスコアの更なる改善を図る



評価機関	スコア定義	2020	2021	2022
MSCI	AAA ~ CCC	B	BB	BB
CDP 気候水	A ~ F	D C-	D D	D C-
FTSE	満点 5.0	2/5	1.5/5	1.8/5
Eco Vadis	満点 100	36	40	49
ISS	1 ~ 10	10	8	6

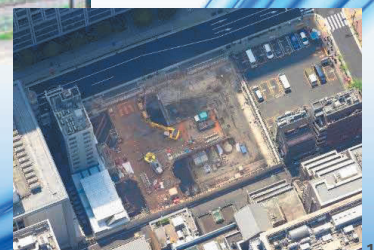
# 新本社建設について



東京駅八重洲口近くに新本社ビルを建設中。

交通アクセス至便な立地を活かし、顧客向けの他、一般向けの情宣も視野に入れたショールームを1階に設置する。  
当社製品をわかりやすく紹介し、自動制御機器や、製造業自体の魅力を発信する拠点とする。

海外子会社を含むSMCグループのランドマークとして位置付け  
国籍を問わず、多様な人材が活躍できる場とする。



## 【本社ビルの概要】

住所：東京都中央区京橋

規模：地下1階地上10階建て 延べ床面積11,467㎡

竣工：2024年11月予定



# 2023年3月期 第4四半期 決算説明資料

2023年5月17日

SMC株式会社

取締役執行役員経理部長 太田 昌宏

Supporting Automation



## 連結損益計算書推移

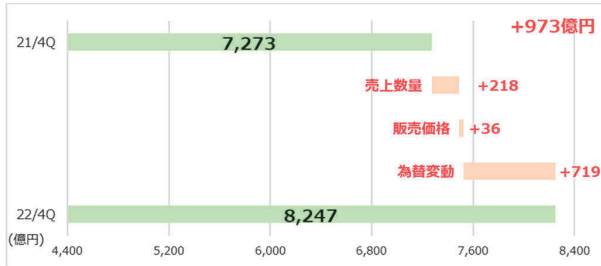
(億円)

	21年度 実績		22年度 実績		前年度比 (21/4Q vs 22/4Q)		22年度 業績予想		22年度 3Q単独		22年度 4Q単独		前四半期比 (22/3Q vs 22/4Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率	金額	達成率	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	7,273		8,247		973	13.4%	8,240	100.1%	2,059		1,972		-86	-4.2%
売上原価	3,635	50.0%	4,036	48.9%	400	11.0%	4,135	97.6%	980	47.6%	961	48.8%	-18	-1.9%
売上総利益	3,638	50.0%	4,211	51.1%	573	15.8%	4,105	102.6%	1,078	52.4%	1,011	51.2%	-67	-6.3%
販売管理費	1,359	18.7%	1,629	19.8%	269	19.8%	1,620	100.6%	436	21.2%	407	20.6%	-29	-6.8%
営業利益	2,278	31.3%	2,582	31.3%	303	13.3%	2,485	103.9%	641	31.2%	603	30.6%	-37	-5.9%
経常利益	2,729	37.5%	3,059	37.1%	329	12.1%	3,020	101.3%	535	26.0%	716	36.3%	180	33.8%
当期純利益	1,929	26.5%	2,246	27.2%	316	16.4%	2,200	102.1%	407	19.8%	508	25.8%	101	24.9%
期中平均為替レート														
ドル	112.39		135.56		+23.17	20.6%	138.00		141.57		132.42		-9.15	-6.5%
ユーロ	130.55		141.05		+10.50	8.0%	139.00		144.35		142.19		-2.16	-1.5%
人民元	17.51		19.75		+2.24	12.8%	19.80		19.87		19.35		-0.52	-2.6%
減価償却費	205		257		52	25.3%	260	99.1%						
研究開発費	234		273		39	16.6%	270	101.3%						

## 【21年度 vs 22年度】売上高・営業利益増減要因

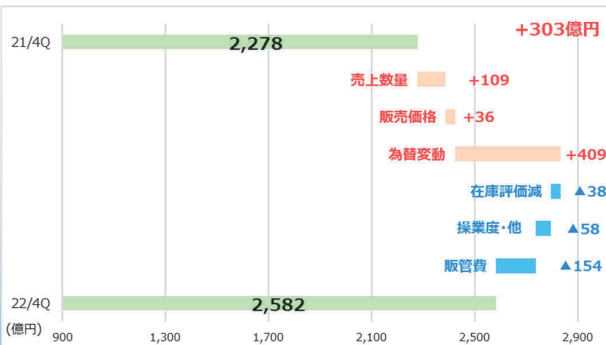
### ①売上高

(億円)



- < 売上数量 > 前年度比3%増加  
日本+30 (+2%) 北米+26 (+3%) 欧州+87 (+7%)  
中華圏+56 (+3%) 他アジア+5 (+1%)
- < 販売価格 > 前年度比0.5%上昇  
日本+4、海外+31 需給逼迫に伴う売価上昇
- < 為替変動 > 前年度比10%増加  
北米(米ドル中心) +221  
欧州(ユーロ中心) +81  
中華圏(人民元中心) +268  
他アジア(韓国円他) +122

### ②営業利益

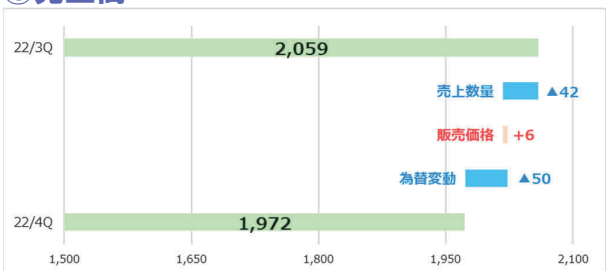


- < 為替変動 >  
・取引(外貨輸出・仕入)要因 +266  
・決算(海外子会社P/L換算)要因 +143
- < 在庫評価減 >  
部品在庫の先行仕入および海外での製品在庫積み増しによる回転率低下
- < 操業度 >  
生産物量増加による操業度改善を超える原材料費・労務費の増加により原価率悪化
- < 販管費 >  
運賃荷造費・配送業務費-57、人件費-20、寄付金-15、旅費交通費-10

## 【FY22/3Q単独 vs FY22/4Q単独】売上高・営業利益増減要因

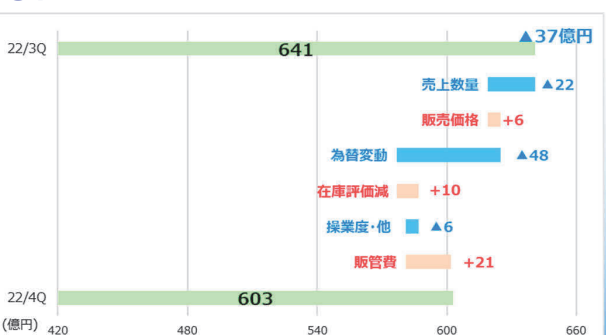
### ①売上高

(億円)



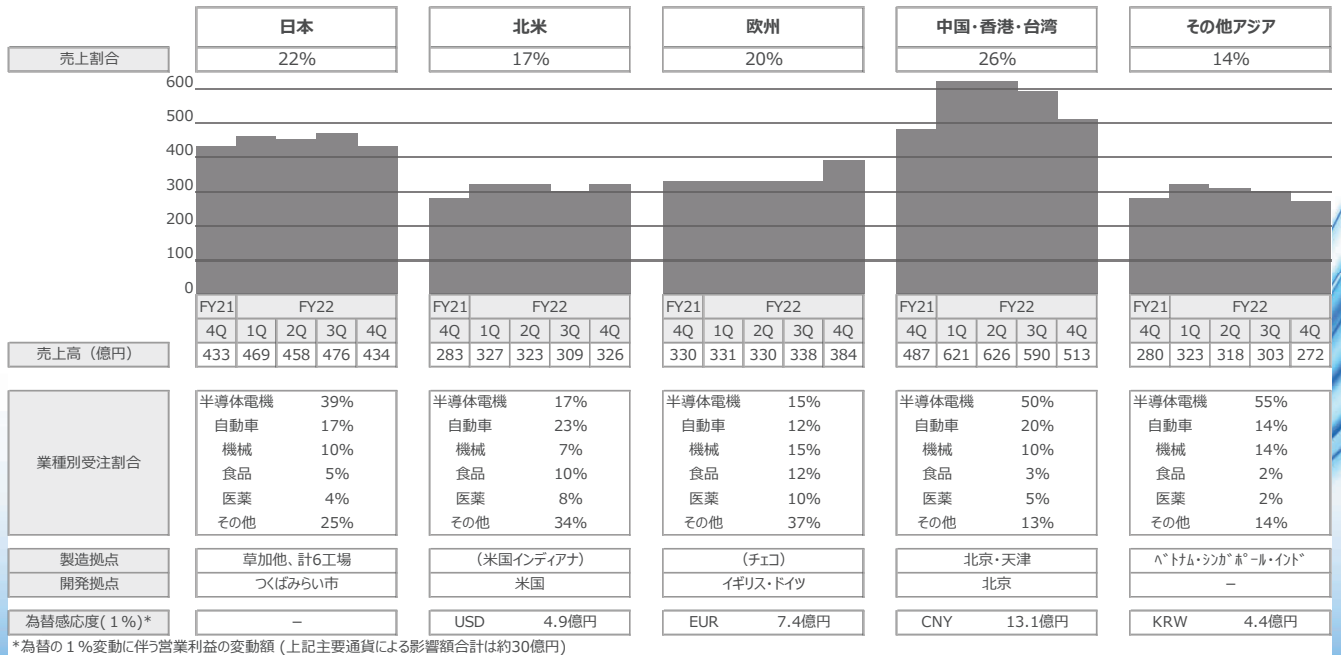
- < 売上数量 > 3Q比2%減少  
日本-37 (-8%) 北米+42 (+14%) 欧州+51 (+15%)  
中華圏-74 (-13%) 他アジア-26 (-9%)
- < 販売価格 > 3Q比0.3%増加  
日本-4、海外+11 需給逼迫に伴う売価上昇
- < 為替変動 > 3Q比微増  
北米(米ドル中心) -20  
欧州(ユーロ中心) -8  
中華圏(人民元中心) -14  
他アジア(SGドル他) -5

### ②営業利益



- < 為替変動 >  
・取引(外貨輸出・仕入)要因 -38  
(内、子会社在庫に含まれる外貨建未実現利益の控除 -19)  
・決算(海外子会社P/L換算)要因 -9
- < 在庫評価減 >  
評価減の対象となっていた一部の在庫の出荷増による回転率の上昇
- < 操業度 >  
生産物量増加による操業度改善を超える原材料費・労務費の増加により原価率悪化
- < 販管費 >  
寄付金 +11、運賃荷造費・配送業務費 +10、人件費 -31、  
租税公課 -12、その他 +37

## 【四半期】所在地別売上推移



\*為替の1%変動に伴う営業利益の変動額(上記主要通貨による影響額合計は約30億円)

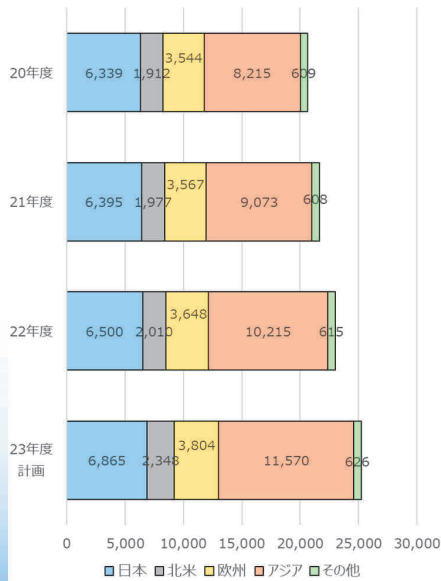
## 連結貸借対照表推移

	(億円)			
	21年度	22年度	前年度末比増減	
資産	17,699	19,279	1,579	8.9%
流動資産	12,584	13,238	654	5.2%
(内 ①現預金)	(6,848)	(6,035)	(-812)	-11.9%
(内 営業債権)	(2,119)	(2,288)	(169)	8.0%
(内 ②有価証券)	(122)	(199)	(77)	63.1%
(内 棚卸資産)	(3,035)	(4,186)	(1,150)	37.9%
固定資産	5,115	6,040	925	18.1%
(内 ③市場価格のある投資有価証券)	(438)	(762)	(324)	74.0%
(内 ④保険積立金)	(1,507)	(1,439)	(-68)	-4.6%
*換金性のある資産 ①+②+③+④	8,916	8,436	-480	-5.4%
負債	2,106	2,256	149	7.1%
流動負債	1,694	1,888	194	11.5%
(内 営業債務)	(621)	(736)	(115)	18.6%
固定負債	412	367	-45	-10.9%
純資産	15,592	17,023	1,430	9.2%
自己資本比率	87.9%	88.1%	+0.2	
1株当たり純資産(円)	23,808	26,331	+2,523	
ROE	13.2%	13.8%		

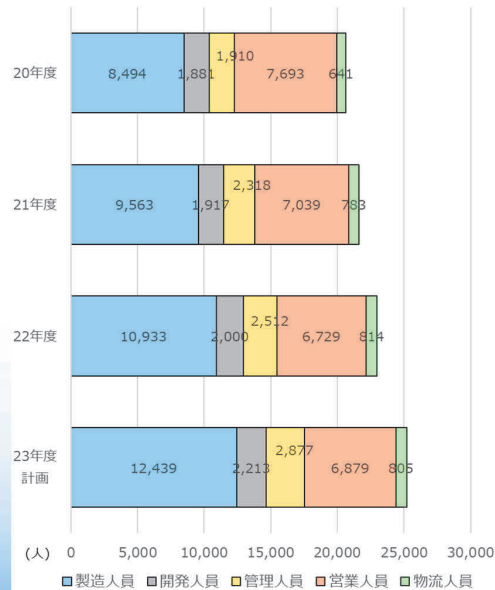
	(億円)		
	21年度	22年度	前年度末比
棚卸資産合計	3,035	4,186	1,150
商品及び製品	1,308	1,652	344
仕掛品	255	313	58
原材料及び貯蔵品	1,471	2,219	747
為替の影響			88
在庫評価減の影響			-49
<b>実質増減</b>			<b>1,112</b>
期中平均月商倍率	5.0	6.1	1.1
期末月商倍率	4.6	5.6	1.0
期末為替レート			
ドル	122.41	133.54	+11.13
ユーロ	136.77	145.72	+8.95
人民元	19.26	19.42	+0.16

## 【年度】社員数推移

### ①地域別



### ②部門別



20,619  
海外社員比率69%

21,620  
海外社員比率70%

22,988  
海外社員比率72%

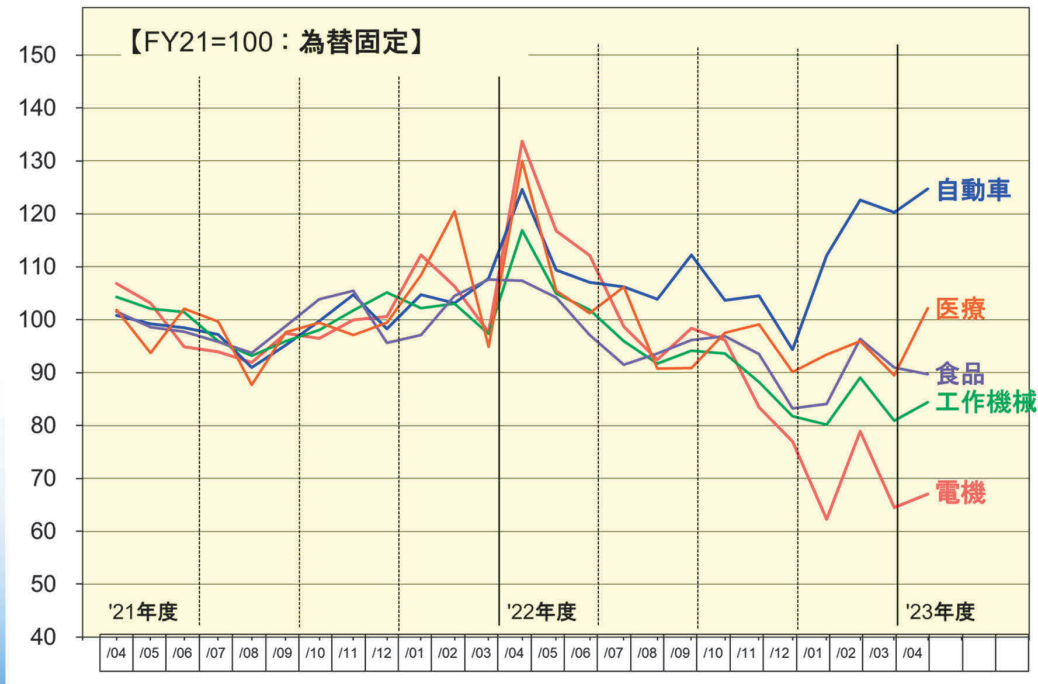
25,213  
海外社員比率73%

## 足元の受注動向（FY21=100）

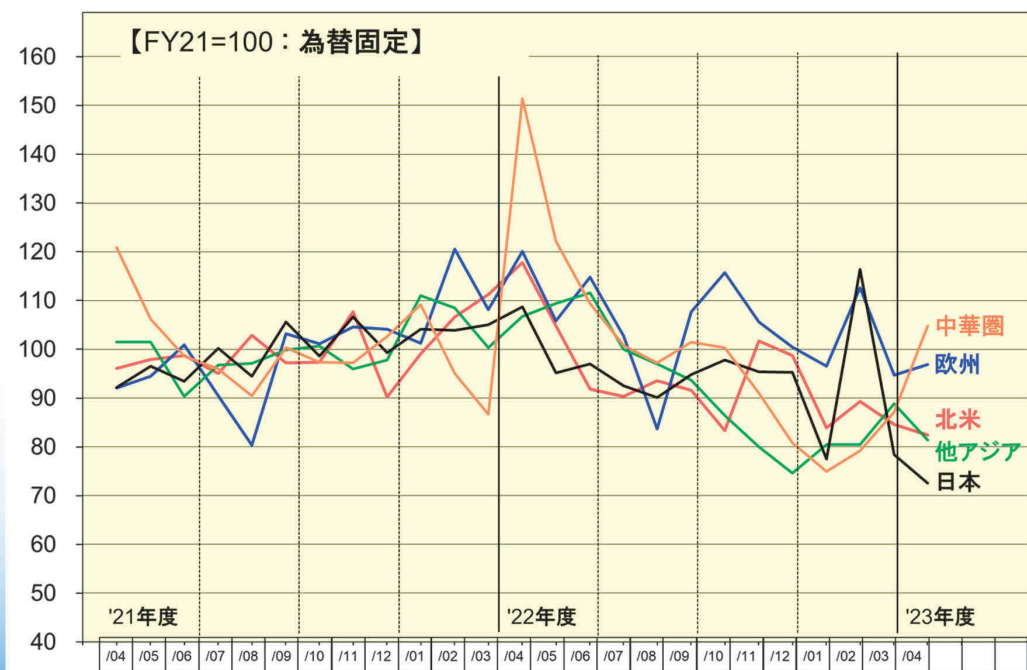
※2023年1月に、中国の二次電池のEV電池分を「電機」から「自動車」のカテゴリーに移動したため、当該業種の受注推移には連続性が無くなっている。

	FY22	'22/3Q	'22/4Q	'23/04	4月の状況	
連 結	電機	93	85	68	67	中国を除くすべての地域で減少傾向
	自動車	110	101	118	125	韓国・中国が増加傾向
	工作機械	93	88	83	84	中国は増加傾向、日本・韓国は横ばい
	食品	94	91	90	90	中国は増加傾向、日本・アメリカは弱含み
	医療	99	96	93	102	中国・ドイツが増加傾向
	その他	101	103	96	96	
日本	95	96	90	73	電機が減少傾向	
北米	94	95	86	82	電機が底ばい、他業種も弱含み	
欧州	105	107	101	97	電機が減少傾向、医療は増加傾向	
中華圏	100	91	81	105	すべての業種が増加傾向	
その他アジア	92	80	83	81	電機が減少傾向	
連結	97	94	87	89		

## 受注推移（業種別）



## 受注推移（地域別）

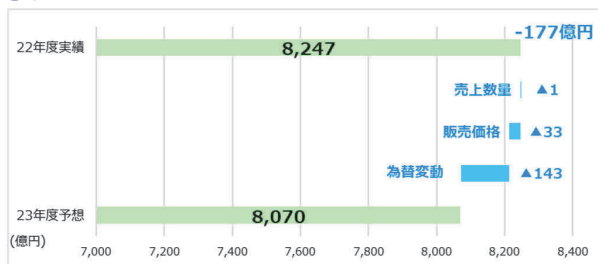


## 年度業績予想

	21年度 実績		22年度 実績		23年度 予想		22年度比 (22年度 vs 23年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	7,273		8,247		8,070		-177	-2.2%
売上原価	3,635	50.0%	4,036	48.9%	4,050	50.2%	13	0.3%
売上総利益	3,638	50.0%	4,211	51.1%	4,020	49.8%	-191	-4.5%
販売管理費	1,359	18.7%	1,629	19.8%	1,690	20.9%	60	3.7%
営業利益	2,278	31.3%	2,582	31.3%	2,330	28.9%	-252	-9.8%
経常利益	2,729	37.5%	3,059	37.1%	2,530	31.4%	-529	-17.3%
当期純利益	1,929	26.5%	2,246	27.2%	1,830	22.7%	-416	-18.5%
期中平均為替レート								
ドル	112.39		135.56		130.00		-5.56	-4.1%
ユーロ	130.55		141.05		145.00		+3.95	2.8%
人民元	17.51		19.75		19.00		-0.75	-3.8%
設備投資	834		815		1,200		385	47.1%
減価償却費	205		257		300		43	16.4%
研究開発費	234		273		300		27	9.6%
年間配当(円)/株	750		900		900		0	

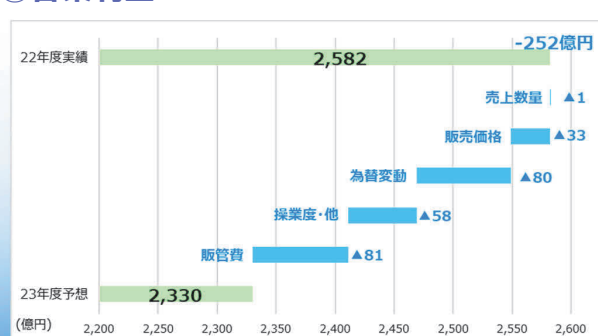
## 【23年度業績予想値 vs 22年度実績比】売上高・営業利益増減要因

### ①売上高



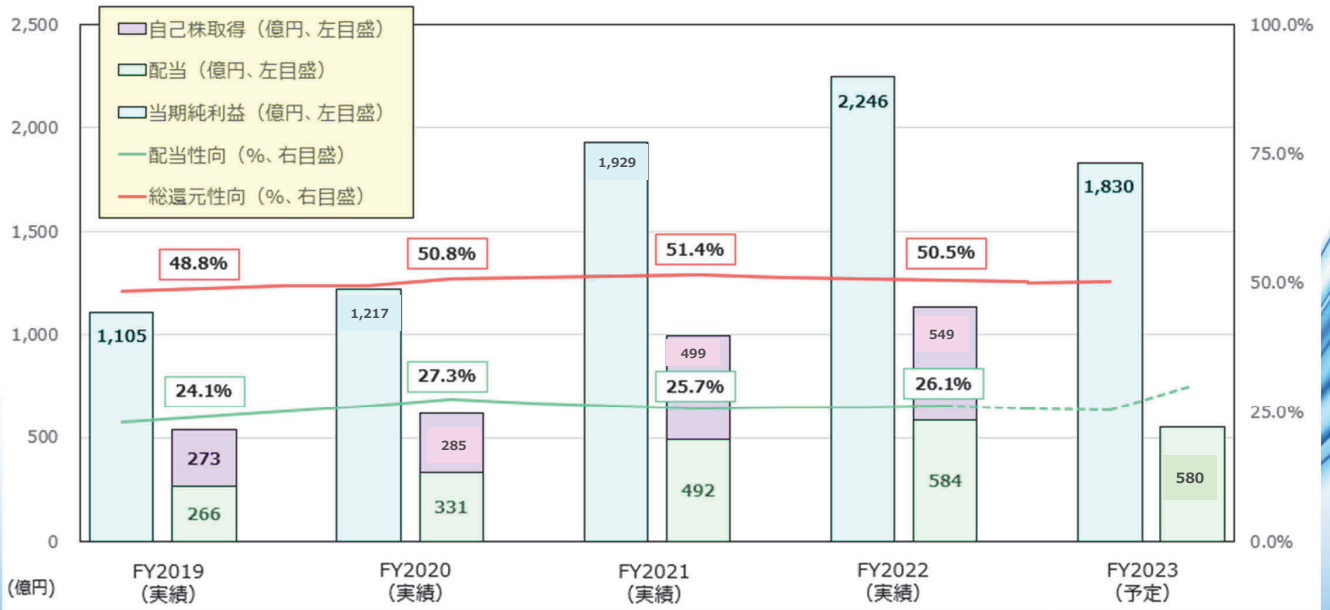
- < 売上数量 >
  - ・日本 -47 海外+46
  - 北米は減収となるも、アジア・欧州で増収
- < 販売価格 >
  - ・日本 -12 海外 -21
- < 為替変動 >
  - ・北米 -42
  - アジア -115

### ②営業利益



- < 為替変動 >
  - ・為替を円高で見込んでおり輸出採算低下と海外子会社P/L換算利益が減少
- < 操業度・他 >
  - ・生産物量は微減となり操業度も低下し、材料費も引き続き増加を見込む。
- < 販管費 >
  - ・人件費 -42、旅費交通費 -6、運賃荷造費 -4、支払手数料 -3

## 株主還元の推移



本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績はさまざまな複合的要素により、記載された見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、予めご承知おさください。

ご清聴ありがとうございました。

Supporting Automation

